



RubyWorld Conference 2017 開催報告

2017年11月1日(水)、2日(木)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、9回目となる「RubyWorld Conference 2017」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。

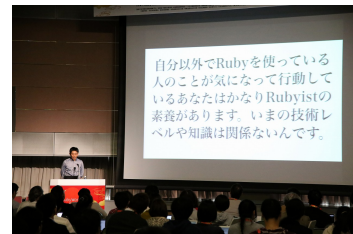


今回の国際会議では、Rubyに関するビジネス利用事例や、最新技術の情報などを紹介する様々なセッションを通じて、Rubyがより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外16名が講演し、来場者数は2日間で延べ801名(詳しくは下記を参照)を数えました。

オープニング・セレモニーで、まつもとゆきひろ 実行委員会委員長、藤原孝行 島根県副知事、松浦正敬 松江市長の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 和泉憲明 企画官に、来賓ご挨拶をいただきました。



引き続き基調講演では、Rubyの開発者まつもと委員長が「Ruby After 25Years」と題し講演。また、2日目の基調講演では、「Ruby Is Nice so We Are Nice」と題し一般社団法人日本Rubyの会の角谷信太郎氏に“Ruby”は“NICE”ではあるという事をRubyist達がどのようにしていくべきかを考えるきっかけになればよいとのご講演をいただきました。



初日の午後は、新たにRubyコミュニティに貢献した方の活動を表彰する、「Rubyコミュニティの新人賞」として、2013年よりスタートしたRuby Prize 受賞者の発表と表彰が行われました。その他、国内外のRubyの技術者、企業関係者が講演しRubyの更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2日間の議論を振り返るとともに、来年のRubyWorld Conferenceの開催意向を表明し、閉幕しました。

- 来場者について 2日間延べ 801名 (11月1日 464名、11月2日 337名)
来場実数 577名 (県内 214名、県外 345名、海外 18名)
 - ・IT企業関係者 370名 (県内66名、県外288名、海外16名)
 - ・その他企業関係者 37名 (県内8名、県外29名)
 - ・行政関係者 51名 (県内44名、県外7名)
 - ・研究教育機関関係者 101名 (県内94名、県外7名)
 - ・一般(所属なし) 2名 (県内0名、県外2名)
 - ・講演者 16名 (県内2名、県外12名、海外2名) ※Ruby Prize 受賞者含む
- 講演者について
 - ・国内 14名 (企業関係者 12名、教育機関関係者 2名)
 - ・海外 2名 (インド1名、台湾1名/うち企業関係者1名・教育機関関係者1名)